

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

果樹カメムシ類の果樹園への飛来開始時期（技術情報第9号）について（送付）
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導に御活用ください。

記

果樹カメムシ類がヒノキ球果から離脱し果樹園に飛来する時期は、8月中旬～9月上旬と予想され、総じて前年より早い傾向がある。

なお、ヒノキ林に近い園地や台風襲来後は、突発的に予測日より早く飛来することがあるので、今後の発生に注意し、早期発見と初期防除を心がける。

1 発生状況

- （1）7月22日に4地点で行ったヒノキ結果枝のビーティング調査では、果樹カメムシ類の成幼虫数は平年より少なかったが、7月上旬と比べ増加していた（表1）。
- （2）7月19日及び7月22日に採取したヒノキ球果におけるカメムシ類の口針鞘数は、全6地点の平均4.1本/果（平年4.5本/果、前年2.3本/果）と、平年並であるが、前年と比べると多かった（表2）。

※ヒノキ球果の口針鞘数が25本/果に達する時期が、果樹カメムシ類がヒノキから離脱し、果樹園に飛来する時期の目安となる。

2 飛来開始時期

- （1）果樹園への飛来開始時期は8月中旬から9月上旬と予想された。各調査地点のヒノキからの離脱予測日は、前年より12日早い地点から15日遅い地点までばらつきはあるものの、総じて前年より早い傾向がある（表3）。

なお、ヒノキ林に近い園地や台風襲来後は、突発的に予測日より早く飛来することがあるので、注意する必要がある。

3 防除対策

- （1）果樹カメムシ類は、エサとなるヒノキ・スギ球果を食い尽くすと、山林から果樹園に飛来するので、離脱開始予測日（表3）と病害虫防除所のホームページ(<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/168705.html>)に掲載している「ヒノキ球果の口針鞘数・寄生頭数調査」、「予察灯・フェロモントラップ誘殺数」を参考に早期発見及び初期防除に努める。
- （2）飛来時期や量は地域や園地による差が大きく、同一園内でも局在するため、園内全体を観察する。また、山間部や山沿いの園では、発生が集中する場合もあるので、注

意する。

- (3) 果樹カメムシ類は日没直後に園外から侵入し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。
- (4) 薬剤の使用回数、濃度、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物への農薬飛散（ドリフト）に注意する。また、付近にミツバチの巣箱が設置してある園では、事前にその管理者に連絡するなど、農薬による危害防止に努める。
- (5) ピレスロイド系剤（IRACコード：3A）は、ミカンハダニやカイガラムシ類のリサーチェンスを起こすので、カメムシ類防除後にこれらの害虫の発生に注意する。

表1 ヒノキ球果枝におけるビーティング調査結果（頭/地点）

調査年次	7月上旬	7月下旬	8月上旬
2024年(R6)	3.00	3.50	
2023年(R5)	1.00	2.75	3.50
2022年(R4)	3.30	6.50	4.30
2021年(R3)	1.00	6.50	4.30
2020年(R2)	0.25	1.50	3.00
2019年(R1)	1.50	3.00	8.50
2018年(H30)	15.00	18.00	5.00
2017年(H29)	0.50	0.50	1.00
2016年(H28)	0.25	0.25	1.00
2015年(H27)	0.00	1.00	1.00
2014年(H26)	1.25	10.50	2.75
平年値(過去10年)	2.41	5.05	3.44

- 1) ヒノキ球果が着生した枝に網をかぶせ、寄生虫をたたき落とす。
- 2) 調査地点は熊本地域1、宇城地域2、菊池地域1の4地点。
- 3) カメムシ類の寄生虫数は、1地点当たり5枝分の合計を4地点で平均した。

表2 ヒノキ球果の口針鞘数調査結果（本/果）

調査地域	調査地点	7月上旬	7月下旬	8月上旬
熊本地域	熊本市(河内)	7.4	6.4	
宇城地域	宇城市(松橋)	5.8	3.1	
	宇城市(三角)	4.3	1.5	
菊池地域	合志市(栄)	1.4	3.9	
天草地域	天草市(上島)	2.6	6.1	
	天草市(下島)	0.9	3.3	
平均値		3.7	4.1	
前年値		0.2	2.3	4.1
平年値(過去10年)		1.0	4.5	8.5

表3 果樹カメムシ類のヒノキ球果からの離脱予測日

調査地点	離脱予測日						
	本年(R6)	前年比	前年(R5)	R4	R3	R2	R1
熊本市(河内)	8月21日	7日早い	8月28日	9月11日	9月10日	9月13日	9月16日
宇城市(松橋)	9月2日	6日早い	9月8日	8月23日	9月3日	9月7日	9月3日
宇城市(三角)	9月8日	15日遅い	8月24日	8月26日	9月7日	8月31日	8月26日
合志市(栄)	8月30日	11日早い	9月10日	9月4日	9月6日	9月13日	9月9日
天草市(上島)	8月19日	12日早い	8月31日	7月26日	7月21日 [※]	9月11日	9月9日
天草市(下島)	8月29日	9日早い	9月7日	7月22日 [※]	9月12日	9月12日	9月20日
平均	8月28日	5日早い	9月2日	8月18日	8月30日	9月9日	9月8日

<表2、3の調査方法>

1) 調査日 : 7月19日、22日

2) 調査規模 : 各地点30球果(酸性フクシンで口針鞘を染色後、検鏡にて計数した)

<表3の予測離脱日>

福岡県農業総合試験場が開発した予測式により算出した。

$$\text{予測式} : Y = 54.17 - 3.776X + 0.01937X^2$$

Y : 調査日から離脱日までの日数、X : ヒノキ球果1果当たり口針鞘数

Xは小数点第二位を四捨五入、Yは小数点以下切り捨て

※予測式による計算値がマイナスになった場合は離脱日までの日数を0とした。

熊本県病害虫防除所
 (熊本県農業研究センター生産環境研究所内)
 担当 : 清永 TEL : 096-248-6490